

	キャリア教育の視点	キャリア教育における課題分析	授業改善策
1年	自分のよいところを見付ける力	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート(7月実施)によると、74.7%(学年)の児童がよいところと言えると回答している。道徳(個性伸長)の授業等で自分のよいところを見付けたり、見付けてもらったりしているにもかかわらず、それが自分のものとして認識できていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学活の授業だけでなく、教科の授業等でも自分のよいところを見付けたり、見付けてもらったりできるよう自己理解につながる授業展開を意識して行っていく。
	次のことを考える力	<ul style="list-style-type: none"> 授業の様子から、言われたことは積極的に取り組む児童は比較的多いが、計画を立てて学習に取り組んだり、目標をもって挑戦したりするなど、自分で決めて進めていくことはまだ難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の始めに子供たちと一緒に話し合いながら「学習のめあて」や「学習の流れ」を確認できるような活動を重視する。見通しをもって学習に取り組むことができるようワークシートを工夫する。
	みんなで学び聴く・伝える力	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート(7月実施)によると、「相手の話をしっかり聞こうとしている」と回答した児童は、92.4%(学年)であった。相手の話をしっかり聞くことは大切だと思っている児童は多く、自己評価は高いものの、実際には教師や友達の話を最後まで興味をもって聞くことが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を最後まで聞き、それから質問をするということを、授業だけでなく日常的に習慣付けられるよう、声掛けをしていく。授業の際は、友達が発表するときに興味をもって聞くことができるよう、「聞くポイント」を示すなど意図的に指導していく。
2年	自分のよいところを見付ける力	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート(7月実施)によると、80%(学年)の児童がよいところと言えると回答している。20%の児童は自分のよさを自覚できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のよいところを見付けたり、友達に見付けてもらったりするような活動を積極的に取り入れる。好きなことを見付けられる力も自分のよさであるという視点を児童と共有していく。
	次のことを考える力	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート(7月実施)によると、92%(学年)の児童が自分で学習計画を立てられていると回答している。係活動など自分の興味のあることについては、計画的に行動している児童が見られる。次のことを考える力とはどのようなものなのか児童と共有することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「次のことを考える」とはどのようなことなのか、具体的に共有する。例えば、見通しをもって行動できている児童について価値付けたり、児童と一緒に学習計画を立てたりしていく。

	みんなで学び 聴く・伝える力	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート(7月実施)によると、「相手の話をしっかり聞こうとしている」と回答した児童は96%(学年)であった。友達と一緒に話合う活動については、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の話を受け止める聞き方について手だてが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科や学活を中心に、相手の話を受け止めたり、受けて話をつなげたりするモデルを提示し、掲示物等でいつでも確認できるようにする。また、話し合いのよさについても意識できるような指導をしていく。
3年	自分のよいところを見付ける力	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート(7月実施)の結果より、「自分のよいところを言える」と回答した児童は68.3%(学年)であった。1学期に実施した道徳(個性伸長)の授業でも、他人と比べて特に優れているところが「自分のよいところ」と認識する児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて個性伸長をテーマにした道徳の授業を複数回実施する。授業では、頑張っていることがある、継続的に取り組んでいることがある、という場合も、それは立派に「自分のよいところ」だと認識できるように、教材文を生かした、自己理解につながる授業展開を意識する。
	次のことを考える力	<ul style="list-style-type: none"> 授業の様子から学習計画を立てたり、学習の見通しをもって取り組んだりすることに苦手意識をもつ児童がいる。学校評価児童アンケート(7月実施)でも、計画を立てて学習に取り組む児童は67.2%(学年)にとどまっている。調べ学習においても、何をどう調べればよいのか見通しをもつことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元計画の中で、学習の見通しをもつ場面の活動を重視する。具体的には、めあてを意識する機会を複数回設けることで、めあてに沿った計画が立てられるようにする。また、調べ学習においては、何をどのように調べるか、テーマや調べる方法を明確にして学習に取り組むことができるようワークシートや学習展開の工夫を行う。
	みんなで学び 聴く・伝える力	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート(7月実施)より、相手の話をしっかり聞こうとしている意欲が高い児童が87.1%(学年)であった。多くの児童は意識しているが、一部の児童が教員の話最後まで聞いたり、友達の発表に興味をもって聞いたりすることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に聞き方のマナー(話を最後まで聞き、それから質問をする)を習慣付けるとともに、友達が学習の成果を発表する際は、興味をもって聞くことができるよう、どこに着目して聞けばよいかを、単元を通じて意図的に指導していく。
4年	自分のよいところを見付ける力	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート(7月実施)の結果より、「自分のよいところを言える」と回答した児童は73.1%(学年)であった。4月に実施した道徳の授業では、自分が頑張っていることが自分のよさだと捉えていたが、そのよさをどのように生かせ 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や両親などから褒められたことを自分のよいところと認識している児童が多くいた。そこで、いろいろな活動で友達同士が認め合う時間をとるようにする。友達との交流を通して、それぞれのよさが発揮できるような学級活動が展開できるように

		ばよいのかは分からない児童が多かった。	していく。
	次のことを考える力	・学校評価児童アンケート(7月実施)の結果によると、「計画を立てて学習をする」と回答した児童は84%(学年)であった。しかし、実際に調べ学習をする際、見通しをもって計画的に学習を進められる児童は少ない。	・課題把握→予想→自分の考え→友達の考え→振り返り→まとめという流れをどの授業でも揃えることで見通しをもちやすくする。また、振り返りを大切に、授業で出てきたキーワードを基に、めあてを意識させたまとめをしていくようにする。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・学校評価児童アンケート(7月実施)の結果によると、「しっかり聞こうとしている」と回答した児童は93%(学年)ととても高い。しかし、朝会や授業の様子を見ていると、最後まで黙って話を聞くことができない児童も多数いる。	・日常的な聞き方・話し方の指導に加えて、「聞きたい、伝えたい」という必要感をもたせる学習形態の工夫をしていく。友達の考えと自分の考えを比較・分類する時間を取るなど、聞く時の視点を明確にして授業を展開していく。
5 年	自分のよいところを見付ける力	・学校評価児童アンケート(7月実施)によると、「自分のよいところを言える」と回答した児童は78.9%(学年)であった。今後も、学級活動において互いの良いところを伝え合う活動を継続的に行っていく必要がある。	・学級活動の時間を活用して「自分のよいところ」を自覚する時間を設け、自分のよさが将来の夢や目標にどう結び付くのかを具体的に考えられる授業を展開していく。
	次のことを考える力	・学校評価児童アンケート(7月実施)によると、「自分で学習計画を立て、宿題や家庭学習に取り組んでいる」と回答した児童は74.7%(学年)であった。目的を意識しながら課題に取り組むことが難しい児童がいる。	・目的を意識しながら課題に取り組む学習過程を構築する必要がある。与えられた課題だけでなく、児童自らが単元のゴールに向かって1単位時間のねらいを明確にしながら主体的に学習に取り組めるようにしていく。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・学校評価児童アンケート(7月実施)によると、「友達と話し合い、仲良く活動している」と回答した児童は95.6%(学年)であった。しかし、互いの意見を受けてよりよい考えを導き出そうとする意識は低い。	・話し合いの目的を明確にした上で、自分の意見ばかり押し通さないことや、友達の意見のよいところに着目することで一人では思いつかなかったよりよい考えが生まれることを指導していく。
6 年	自分のよいところを見付ける力	・自分の意見を意識させたことで、自己理解が進み肯定感が高まった。学校評価児童アンケートによると、「自分のよいところを言える」と回答した児童の割合が、45%(令和4	・自分の意見を表現できる言語活動の充実を意識する。

		年度12月実施)から61.8%(令和5年度7月実施)に上昇している。	
	次のことを考える力	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習を多く取り入れたことで、個に課題意識をもたせた。 ・最後まで課題に取り組むことが難しい児童がいた。学校評価児童アンケート(7月実施)によると、「自分で学習計画を立て、宿題や家庭学習に取り組んでいる」と回答した児童は68.2%(学年)であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科単元の学習計画づくりや各自の探求的な活動に力を入れる。 ・児童のつまずきを予測し、どのように対処すべきかの助言と乗り越えるサポートを継続し、粘り強く最後まで取り組めるようにする。
	みんなで学び 聴く・伝える力	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学習に話し合い活動を取り入れ、協力的な態度を養った。 ・「話すこと・聞くこと」を苦手とする児童がいた。(正答率59.6%「全国学力調査」より) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で小集団や全体での話し合いを充実させ、学び合う力を付ける。 ・国語科の学習で重きを置くとともに、日常的な活動の中でも「話す・聞く」活動を積極的に取り入れていく。
音楽	自分のよいところを見付ける力	・自分に自信が無く、課題に取り組もうとせず、うまくできないとやめてしまう児童がいた。	・その児童が活躍できるような場面を見付け、自信をもたせるようにする。
	次のことを考える力	・振り返りをさせたが、それを基に自分で次時のめあてを考えるとところまでいかなかった。	・めあてを基に本時の振り返りをした後、発表し合うことを通して、全体で振り返りを行う。これらを通して次時のめあてを考えていく。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・音楽は視覚的に伝えるのは難しく、よさや面白さが明確でなかったり、伝えるのが難しかったりする児童が多かった。	・音楽を図で表すことで見える化し、お互いの工夫を共有できるようにする。
図画 工作	自分のよいところを見付ける力	・自分の作品に自信をもてず、意欲をもてない児童がいる。	・意欲を引き出すような導入や、授業展開を考える。
	次のことを考える力	・自分の発想を生かして考えることが難しい児童がいる。	・スモールステップを設定したり、視覚的なヒントを与えたりする。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・作品を作ることがメインで、完成した後、鑑賞の時間をゆっくり確保できないことが多かった。	・鑑賞の時間を確保し、児童が互いの取り組みや作品のよさを認め合えるようにする。
算数	自分のよいところを見付ける力	・自分の考えを書いたり発表したりすることが難しい児童がいた。	・個別に考えるヒントを与えたり、どんな考えも肯定したりするような支援をする。
	次のことを考える力	・学習課題を解決するにあたり、かけ算九九などの基礎的な内容がしっかり身に付いていないために思考が止まってしまう児童がいる。	・朝学習や帯単位としてかけ算九九を取り入れる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を分析し、解決をしようという意識が低い児童がいた。(低い児童 33.4%「全国学習状況調査」より) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「算数得点アップウィーク」などで、児童自らが課題を設定・分析する機会を積極的に取り入れ、適切な指導・助言を継続していくことで、児童の自主性を向上させる。
	みんなで学び 聴く・伝える力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを主体的に発表する児童とそうでない児童の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の前で個別に発表する機会が多かったため、近くの児童と意見交換する機会を増やす。 ・授業の展開の中で、タブレットPCを活用し、意見交流を進め、意見の発表の方法を工夫していく。
理科	自分のよいところを見付ける力	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時や学習を進める中で自分達の疑問を基に学習課題を作るのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の気付きを基に、話し合いをさせ、言葉を補いながら、学習問題を作らせる経験をさせる。
	次のことを考える力	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の学習の流れがまだ定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート指導の充実による思考トレーニングを続けていく。
	みんなで学び 聴く・伝える力	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見をしっかりと聴いたり、積極的に意見を言ったりする児童とそうでない児童の差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の話をしっかり聞くところから始めて、自分はどう思うかの意思表示をさせることで、各自自分の考えがもてるようにする。 ・授業の展開の中で、タブレットPCを活用し、意見交流を進め、意見の発表の方法を工夫していく。